

決算審査特別委員会

9月議会は18年度予算の審査を行う重要な会議です。決算審査の方法は、議員全員で構成する決算審査特別委員会（佐藤克夫委員長、小野幸宣副委員長）を置き、9月12日から20日までの6日間の日程で、常任委員会ごとの分科会に分かれ、所管する事項について審査しました。審査の結果、いずれも原案のとおり可決すべきものと決定しました。本特別委員会での主な質疑は次のとおりです。

総括

質問 平成18年度を総括して市長の所感を伺います。

答弁 合併初年度の決算になる訳で、持込の基金（ルール内、ルール外）を適切に執行し一定の約束を果たせた。また、行財政改革についてもハードルを越え、まとめの事ができました。

競馬問題については、正に激震状態であったが、後は存続を願うところであります。

組織機能については、議会からのご意見も頂き、本庁機能を強化した事が功を奏し、1,400人の職員が落ち着いて来ました。

質問 胆沢ダム周辺整備について国県から支援して頂くには

△建設中に進めるべきではないか。

答弁 新市建設計画に盛り込めなかった事業を20年度以降に計画して行かなければならない。しかし、この類の事業は胆沢ダムに限らない。今まで進まなかったのは、財源手当てが出来なかったからであり、今後は総合計画と関連の中で進めてまいります。

質問 小中学校の耐震診断の結果と今後の対策はどうなるのか。

答弁 最優先で改築を必要とする校舎、体育館は6棟あり、緊急課題であります。しかし、持込の基金や新市建設計画との絡みがあり、大変重い課題であります。

総務分科会

質問 長者ヶ原廃寺跡・白鳥館

遺跡の看板に礎石建物風景を入れた案内板に出来ないか伺います。

答弁 平泉町重要公施設デザイン会議で統一されたもので、内容については今後の課題と致します。

質問 新地域エネルギーとして木質バイオマスとエタノールについて、その取組み状況について伺います。

答弁 森林資源を使つてのガス化発電で、そのガス化する過程で発生するカーボンナノチューブが新素材として注目されており特許出願しています。また米からのエタノールについては実際に活用する上でコストの問題や課題もあります。

質問 少子人口対策について現状と対策について伺います。

答弁 子育て環境ナンバーワンプランを平成26年度までの目標数値を決めています。その中で平成19年度の重点事業として、子育て総合支援センターを立上げ、相談窓口を設置しました。

質問 一部事務組合の統合によるメリット・デメリットについて伺います。

答弁 メリットとしては、一般職、特別職を含めた人件費の減が大きく、また3つの組織が別々

行ってきた事務が統一される事です。これまで担ってきた住民サービスを低下させないという事が基本であると考えています。

質問 胆沢ダム周辺整備について伺います。

答弁 胆沢ダム周辺整備のあり方研究会を市とダム工事事務所が共同で設置し調査研究しており、本年度は一定の計画の策定を致します。

質問 地区センターのあり方について、水沢は補助金方式、江刺は交付金方式であるが、算定基準を伺います。

答弁 水沢の場合はセンターの人的な部分を委託料として支払っています。各地区それぞれコミュニティ計画に基づいての事業費補助金で均等割、人口割があります。

江刺の地区センターの交付金の考え方は、一つは人件費相分ですし、事業費相分については水沢と同じ、生涯学習事業費、地域づくり支援事業費で積算しています。

質問 機構改革について、水沢総合支所のあり方をどの様に考えているか伺います。

答弁 平成20年度に抜本的に改革することで現在検討中です。本